もも・ネクタリン情報　No.8

令和5年6月27日発行
JAグリーン長野営農販売部・経済部
JAグリーン長野もも部会

長野県No.１のもも・ネクタリン産地を守ろう！

◆生育状況と当面する重点作業について

降雨が多かったが袋掛けは順調に進んでいる。ネクタリンや桃の早生種の収穫が始まる。

１．生育は、現状昨年より５～７日位早いと思われる。玉肥大は平年に比べ良好となっている。
２．着果が多い樹では**小玉傾向のため、かん水**を適期に行い玉肥大を促す。
３．干天が７～１０日程度続いたら、樹冠下に集中し、２０～３０㎜程度のかん水を行なう。
　なお、**高温が続く場合は、５～７日間隔で行う**。
４．高温による樹体の痛みが増してくる。**日焼け防止対策**を行う。
５．もも・ネクタリン栽培日誌を提出されていない方は、直接流通センター・共選所へご提出下さい。
６．収穫前管理並び腐敗病・ミカンキイロアザミウマ等害虫対策を徹底し、早生品種の適期収穫に努める。
７．高温乾燥傾向の場合はハダニ類が増加する。発生が増加してからでは対策が取れないため、発生状況をこまめに確認する。
８．配布されている「葉面散布肥料・特殊資材の使い方」を参考に葉面散布肥料を有効に活用する。総合的な品質向上対策として、アミノ酸等のケルパック６６、友果、オルガミン等を利用する。
９．せん孔細菌病「春型枝病斑・夏型枝病斑」対策（切除）を励行する。

【もも薬剤防除】

◆第９回薬剤散布について

1. 散布時期･･･７月１日(土)～６日(木)　　《実際散布日記入　　月　　日》
2. 調　合　量･･･水100ℓ当り　※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
展　　着　　剤	１０㎖	―	―
（モベントフロアブル）	５０㎖	ハダニ類・アブラムシ類・カイガラムシ類	７日前まで
ナ リ ア W　D　G	５０g	灰星病・ホモプシス腐敗病	前日まで
（㊞ダイアジノン水和剤）	１００g	シンクイムシ類・カイガラムシ類	前日まで

3. 散　布　量･･･10a当り ⇒ 500ℓ　以上

【ネクタリン薬剤防除】※もも・ネクタリン混植園

◆第９回薬剤散布について

1. 散布時期･･･７月１日(土)～６日(木)　　《実際散布日記入　　月　　日》
2. 調　合　量･･･水100ℓ当り　※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
展　　着　　剤	１０㎖	―	―
（モベントフロアブル）	５０㎖	ハダニ類・アブラムシ類・カイガラムシ類	７日前まで
ナ リ ア W　D　G	５０g	灰星病・ホモプシス腐敗病	前日まで
（㊞ダイアジノン水和剤）	１００g	シンクイムシ類・カイガラムシ類	21日前まで

3. 散　布　量･･･10a当り ⇒ 500ℓ　以上

【第９回薬剤散布共通留意事項】

①収穫中・直前等の品種（たまき・なつき・アームキング～水野ネクタリン等）に飛散しないよう注意する。

②「収穫前日」となっている農薬の使用時期は、収穫24時間前までに散布が終わる事を意味する。

③ホモプシス腐敗病の心配が少ない園は、ナリア WDG に代えてフリントフロアブル 2, 000 倍（水 100ℓ 当り 50mℓ）を使用してもよい。

④シンクイムシ類・モモノゴマダラメイガ・カイガラムシ類の発生園、無袋栽培で害虫の発生が心配される園は、㊞ダイアジノン水和剤 1,000 倍を加用散布する。**なお、ネクタリンは収穫前規制が21日前までなので、特にフレーバートップ等は注意する。**

⑤ハダニ類・カイガラムシ類・アブラムシ類の発生が多い場合は、モベントフロアブル 2,000 倍を加用散布する。

⑥ハダニ類の発生が特に多い場合は、ダニゲッターフロアブル 2,000 倍（水 100ℓ 当り 50mℓ・収穫前日まで）を加用散布する。ただしモベントフロアブルと同系統のため、年間の使用回数をどちらか一方の１回のみの使用とする。

⑦定期防除薬剤に、留意事項記載の農薬を加用散布する場合、農薬効果安定・薬害防止のため、混用薬剤数は、合計4剤までとする。

◆除袋目安と管理について

1. 生育状況に十分考慮しながら、(高温干ばつで生育は遅れ、曇天多雨で生育は進む)別記の日程を目安に地色の抜け具合を観察し適期に除袋作業を進める。

2.除袋時の注意

①除袋が早すぎると、無袋のようになり、着色が遅れ、遅すぎると着色せず、軟化が早くなるので、注意する。一般的な桃は、下記の図1を参考にし白っぽく淡い緑色になる頃が目安です。果実全体の地色が抜けた状態ではやや遅い。

②水野ネクタリンは果実全体が黄色くなったら除袋する。

③大玉から除袋を開始し、小玉や下枝・樹冠内部のものは上枝の除袋4～5日後に数回に分けて行う。最低でも上枝と下枝では生育差があるので2回程度に分けて除袋する。

④もも二重袋を使用したものは、3日程度早めに外袋のみ除袋する。

⑤除袋時に、曇雨天が続きそうな場合は、除袋時期の目安より、２日程度早めに始める。

⑥老木や樹勢の弱い樹は、数日早く除袋する。樹勢の強い樹は、除袋を遅らせる。

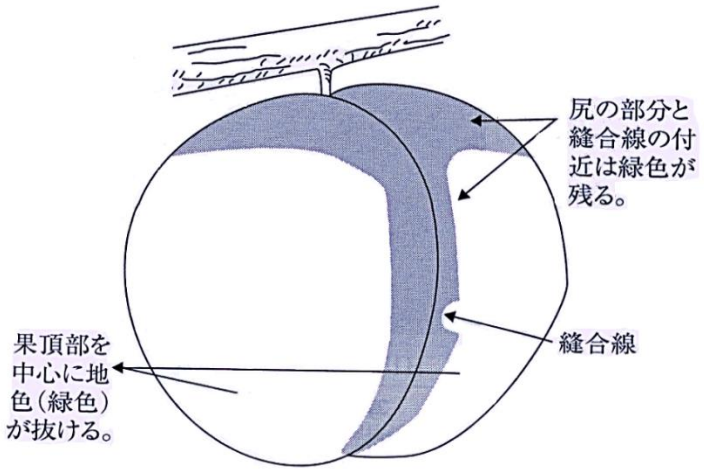

図１　果実の除袋目安

3. 着色管理

①葉つみは、着色ムラをなくすため果実に密着している葉を摘む。1果当たり5枚程度限度とする。摘み過ぎないよう注意する。摘み過ぎは、着色・糖度に悪影響が出やすい。また肌荒れ・日焼け・軟化等、品質低下になる場合がある。※もも二重袋を使用した場合は、葉摘みはしない。

②反射シートは、有袋品種で、除袋直後から使用する。無袋品種で収穫予定日の10～14日前位から使用する。 概ね着色したら軟化防止のためシートを外す。

③支柱立て、誘引を行い樹内部に日の光が入るようにする。

④着色先行となり、早採りを助長するので、熟度をよくみて判断し収穫する。

4. 除袋時期の目安 （あくまで目安です。今後の気象条件・自園の状況に合わせる）

品　種	時　期	目安の指標
水野ネクタリン	7月初旬頃	収穫7～10日前頃
白鳳	7月上中旬頃	収穫7～10日前頃
あかつき	7月中旬頃	収穫7～10日前頃
川中島白鳳	7月中下旬頃	収穫4～7日前頃

※目安の指標：着色が容易な品種ほど除袋は遅めに。着色が困難な品種ほど早めとしてください。

5. 薬剤防除　【もも・ネクタリン共通】

「除袋後」並びに**「収穫開始2日前防除」**を行う。

①有袋除袋後又は、無袋着色始め～収穫７日前の薬剤散布を必ず行う。

・調 合 量・・・水100ℓ当り ※混用順に記載。 《実際散布日記入　　月　　日》

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
ア プ ロ ー チ Ｂ Ｉ	１００㎖	機能性展着剤	―
スクレアフロアブル	３３㎖	灰星病・ホモプシス腐敗病	前日まで
アーデントフロアブル	５０㎖	モモハモグリガ・ミカンキイロアザミウマ・シンクイムシ類・ハマキムシ類	前日まで

②収穫開始２日前防除の薬剤散布を行う。 **★降雨が多い場合は、非常に重要な防除。**

・調 合 量・・・水100ℓ当り ※混用順に記載。 《実際散布日記入　　月　　日》

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
ア プ ロ ー チ Ｂ Ｉ	１００㎖	機能性展着剤	―
オンリーワンフロアブル	５０㎖	灰星病・ホモプシス腐敗病	前日まで
（ディアナ　ＷＤＧ）	２０ｇ	ミカンキイロアザミウマ・シンクイムシ類・ハマキムシ類	前日まで

6. 留意事項

①市場・量販店・お客様宅到着時での腐敗病防止の為、必ず散布して下さい。

灰星病・ホモプシス腐敗病・ミカンキイロアザミウマ・シンクイムシ等の被害果を出したら、築き上げてきた市場や贈答品の信用が著しく落ちしてしまうので、必ず散布する。

②「収穫前日」となっている農薬の使用時期は、収穫する24時間前までに散布が終わる事を意味する。

③果柄部へも丁寧に薬剤散布を行う。

④除袋直後（ほとんど果面に日照を受けない状態）は、薬害（褐色の流れサビ斑・縞状の着色不良）が出やすいので少なくとも1～2日程度は日照をあてて散布する。

⑤ミカンキイロアザミウマ・ハマキムシ類・シンクイムシ類の発生が心配される園は、『収穫開始2日前防除』にディアナWDG5, 000倍を加用散布する。

⑥薬剤が掛かるように、樹・枝に風通しが良いようにしておく。

⑦腐敗果を発見したら被害を拡大させないために、園外に持ち出すか除去し土中に埋める。

◆せん孔細菌病の対策を実施しよう！！

①夏型枝病斑の剪除をする。
　枝の病斑で、アメが出ていなくても病斑の場合があるので見落とさないように注意する。
②春型枝病斑も引き続き剪除する。

上記の写真の〇印部分が、被害例です。

《栽培に関する問合》
　寺澤（篠ノ井西部・信田）：080-1188-5229／外谷（篠ノ井東部）：080-8048-6602
　松橋（松代）：090-4816-6297／佐藤（川中島）：090-7179-9866
　根津（更北）080-1203-8576／元田（若穂）282-2002
　吉澤（全域・編集担当）：090-2543-0365／営農販売部（本所）：292-0930
〇果樹のアドバイザー（流通センター長兼務）
　松澤（若穂）080-1191-5166／伊藤（篠ノ井東部）080-2239-6816
　松坂（篠ノ井西部）080-1188-4131
《販売に関する問合》各流通センター・共選所／営農販売部（本所）：292-0930
《資材に関する問合》各ＪＡファーム・営農資材センター・経済部／農業資材課：299-3311